

# 慶應義塾保険学会 設立60周年記念講演会を開催

## 保険業界の今後の展望探る

### 生損保シンクタンクの代表が講演

慶應義塾保険学会(理事長・堀田一吉商学部教授)は1月19日、東京都港区の慶應義塾大学三田キャンパスで設立60周年記念講演会「日本の保険業 過去、現在、そして未来」を開催した。講演では、ニッセイ基礎研究所の野呂順一社長と損保ジャパン総合研究所の百瀬剛社長が保険業界の今後の展望について語った。講演会には慶應大学や獨協大学などで保険学を学ぶ学生のほか、保険業界に籍を置く関係者、OBなどが多数集まった。(4・5面に講演内容の詳細を掲載)

慶應義塾保険学会の設立60周年記念講演会で、最初にあいさつした堀田一吉商学部教授は、日本に保険の概念を紹介した福沢諭吉の門下生の多くが保険会社の設立に携わったことや、戦後復興期の1952年に設立された同学会が産学連携を旨として活動を続けてきた歴史を振り返り、初代の園乾治理事長、2代目の庭田範秋理事長(共に慶應義塾大学商学部教授)が推進してきた産学協同の研究



会場には多くの関係者が集まった



堀田教授

念を紹介した福沢諭吉の門下生の多くが保険会社の設立に携わったことや、戦後復興期の1952年に設立された同学会が産学連携を旨として活動を続けてきた歴史を振り返り、初代の園乾治理事長、2代目の庭田範秋理事長(共に慶應義塾大学商学部教授)が推進してきた産学協同の研究



岡村教授

野呂社長は「商品開発・保険数理から見た三つの転換点」と題して講演。戦後の日本生保市場の転換点となった三つの出来事が日本の生保市場に与えた影響を解説し、今後の生保商品開発に求められるポイントを挙げた。

百瀬氏は「安全から安心、そして楽しさへ」安心の、さらには楽しいライフスタイルの提案」と題して講演。再編や統合、生保や海外などの新分野への進出が進む中、国内市場を「成熟市場」と見なすのではなく、新たなライフスタイルの提案によって保険需要を創出していくことが大切だとの見方を示した。

最後にあいさつした獨協大学の岡村和教授は「規模の経済性を押し進めても、いずれは頭打ちとなる。ライフスタイルを考え直し、意識改革をきっかけに新市場を開拓する方向性に向けた示唆に富む貴重な講演をいただいた」と両講演者に感謝するとともに、学会のさらなる発展に向けて決意を述べた。



懇親会の参加者

同じく常務理事の宮内知有氏は、講演会の運営を支えた慶應義塾大学堀田ゼミや獨協大学岡村和ゼミの学生たちに感謝の意を示すとともに、学生たちの今後の保険業界での活躍に期待と激励の言葉を送った。